



- 1 社会的養護が必要な人々の体験就労
- 2-3 介護保険とワーカーズ・コレクティブが担う福祉
- 4 NPO 法人から労働者協同組合へ 他

社会的養護を必要とする若者への支援 笑顔と自信を手にする体験就労

児童養護施設や里親など、社会的養護を巣立った若者たちは、頼れる大人の不在や虐待等の後遺症から自立が難しいケースが少なくありません。社会の中で自らの力を発揮して生きていくことを応援する民間の団体は複数あります。

協同組合等がネットワークし、社会的養護を必要としている若者の体験就労の場を提供しています。ワーカーズ・コレクティブもその一つです。埼玉県内の5つのワーカーズ・コレクティブが体験者を受け入れています。体験を積むことで不安から自信へつながる様子を、社会的養護が必要な若者への支援を行っている一般社団法人コンパスナビから伝えてもらいました。

働くことをあきらめないように…

施設等を退所した若者の約半数が就職を選びますが、2年以内に40%以上が離職しています。人間関係の不調や仕事の継続が困難となり、働くことを諦めてしまう方多くあります。

しかし、「しごと」は単なる生計の手段ではなく、人と助け合い、関係を築き、自信ややりがい、生きがいを育む大切な機会です。

働くことに不安を抱える若者にとって、「しごと」を体験できる場は非常に貴重です。時間を守る、挨拶をする、会話を重ねる、メモを取る——こうした基本を一から丁寧に教えてくれる大人は多くありません。



蜂蜜の製造販売も体験に



蜂蜜などの販売会の様子

社会への一步を

体験就労プログラムに参加した若者たちは、最初は不安げな表情を見せていましたが、終了時には笑顔と自信を手にしています。実際に、施設職員からは「生活リズムが整った」「社会に認められた感覚を得て、自信が持てるようになった」といった感想が寄せられています。

また、初めて受け入れた事業所の方々も、当初は「何かできる仕事を準備しないといけないのでは」と不安を抱くことがありました。しかし、体験を終える頃には「若い人と一緒に働けて楽しかった」と、多くの方が前向きな手応えを実感されています。彼らが自立し、成長していくための一歩を踏み出す場を、ぜひご一緒に支えていただきたいと思います。

一般社団法人コンパスナビ 河本 稀英(かわもと きみえ)

未来ある若者との仕事、

異世代交流

楽しい時間

受け入れ
事業所から

おべんとう屋
はな
手先が器用で覚えるのが早い。今後も活躍できるでしょう。

キッチン
とまと
忙しい時に慌てずに冷静だった。

紬
のみこみが早く進んで仕事ができました。
クレープを上手につくれました。

ふらっと
フットワークが軽く、楽しそうに仕事をされていました。

むすび食堂
丁寧にまじめにお仕事していました。